

平成30年度

第6回いわき市教育委員会議事録

平成30年9月26日（水）

第 6 回 教 育 委 員 会 記 録

- 1 開会年月日 平成30年9月26日(水) 午後1時00分
- 2 開催場所 教育委員室
- 3 出席委員
- | | |
|----------|---------|
| 教育長 | 吉 田 尚 |
| 教育長職務代理者 | 馬 目 順 一 |
| 委 員 | 山 本 もと子 |
| 委 員 | 根 本 紀太郎 |
| 委 員 | 宮 澤 美智子 |
- 4 欠席委員 な し
- 5 説明のために出席した者の氏名
- | | |
|---------------------|-----------|
| 教育部長 | 柳 沼 広 美 |
| 教育部次長兼総合調整担当 | 松 島 良 一 |
| 学校教育推進室長 | 渡 邊 賢 晃 |
| 中央公民館長 | 遠 藤 喜 一 |
| いわき総合図書館長 | 夏 井 芳 徳 |
| 教育政策課長 | 緒 井 方 勝 也 |
| 施設整備課長 | 緑 川 安 彦 |
| 参事兼生涯学習課長 | 緑 川 直 行 |
| 学校教育推進室学校教育課長 | 玉 澤 淳 二 |
| 学校教育推進室学校支援課長 | 木 村 丈 泰 |
| 事務局統括主幹兼教育政策課長補佐 | 井 坂 一 夫 |
| 教育政策課長補佐 | 鈴 木 康 孝 |
| 施設整備課主幹兼課長補佐 | 佐 藤 孝 博 |
| 生涯学習課課長補佐 | 平 子 博 文 |
| 学校教育推進室学校教育課管理主事 | 菅 野 輝 義 |
| 学校教育推進室学校教育課主幹兼課長補佐 | 會 田 尚 彦 |
| 学校教育推進室学校支援課課長補佐 | 高 木 尚 道 |
| こどもみらい課長 | 高 藁 喜 浩 |
| 参事兼文化振興課長 | 鈴 木 谷 常 夫 |
| 美術館副館長 | 杉 浦 友 治 |
| こどもみらい部統括主幹兼課長補佐 | 松 崎 正 治 |
| こどもみらい課企画係長 | 草 野 健 一 |
| 文化振興課埋蔵文化財専門員 | 矢 島 敬 一 |
- 6 書 記 教育政策課主任主査兼総務係長 藁 谷 昇
- 7 閉 会 午後1時50分

会議の概要

教育長 ただいまから平成30年度第6回いわき市教育委員会を開催いたします。

欠席委員の通告は、ございません。書記には藁谷主任主査（兼）総務係長を任命します。会期は、本日限りといたします。議事録への署名でございますが、本日出席された委員の皆様をお願い申し上げます。

それでは、教育長の報告ですが、本日は1件でございます。

「いわき市教育・保育施設（公立）の整備のあり方」について（市社会福祉審議会児童福祉専門分科会からの提言の報告及びその後の実施方針について）でございます。それでは、こどもみらい課長より説明願います。

こどもみらい課長 〔教育長の報告（1）「いわき市教育・保育施設（公立）の整備のあり方」について（市社会福祉審議会児童福祉専門分科会からの提言の報告及びその後の実施方針について）説明〕

教育長 ただいま、説明がありました。何か御質問等あれば何でも結構でございますので、よろしく願います。

宮澤委員 2点、お伺いしたいのですが、公立幼稚園の再編で、公立幼稚園が縮小されますが、その幼稚園で働いていた先生の今後はどうなるのか、という点と、基幹園という言葉は初めて聞きましたので、基幹園について、もう少し詳しく説明いただきたいと思っております。

こどもみらい課長 現任の先生がどうなるのかということですか。

宮澤委員 新規での採用はしないということですか。

こどもみらい課長 新規採用については、職員の定年退職の状況に応じて補充する形になっております。今後も幼稚園の休園が進まない場合は、これからも採用が出てくる可能性もあります。こうした中で、障がい児統合保育や地域に開かれた園として、各地区一か所程度は基幹園を設けることとしています。公立幼稚園を縮小していく中でも、公立幼稚園の役割はあるということの定義付けと、現場の働く教諭の意識付けや意欲の側面からも、一定数は、地域に開かれた園として基幹園分は維持するというものであります。公立幼稚園が集約される中で、その範囲で、幼稚園教諭は間に合うようにと、現在は考えております。

また、基幹園についてですが、例えば、未就園児が来年3歳になるので、園の様子を見学に来たいという場合に、各園でも、みゅう広場や、地域との交流のような企画を行っているところですが、基幹園に見学に行けば、公立の幼稚園が見える、モデルケースになることを想定しています。幼稚園側として、もっと親しまれるような企画ですとか、いろいろな交流事業など、具体的には、例えば、これから現場とワーキングを行うなどの手法で作っていきたいと考えています。

宮澤委員 せっかく公立幼稚園が残るので、公立幼稚園の強みを生かしていただきたいなと思います。これからは無償化ということで、それまで公立幼稚園に通っていたお子さんが、だいぶ私立幼稚園に流れていくわけですから、基幹園が公立幼稚園と私立幼稚園とのネットワーク構築のステーションとしての機能を果たしていけたらいいと思います。

小学校に入学するまでの大事な時期ですので、いろいろな職種の方々との話し合いの場が持てる、情報共有のできるステーション的な役割があってもいいのかなと思いましたので、今後の方針を考える際の参考にしていただけたらありがたいです。

教育部次長兼総合調整担当 補足ですが、最初に、今働いている現任の先生の質問が出ましたが、今、嘱託の先生にクラスをお願いしている部分がありますので、そちらの方々の方が正規の先生に置き換わっていくことも将来的には考えられます。嘱託教員数の維持が前提となるものの、現段階でご懸念されていることはないかなと思っています。

教育長 その他ございますか。

根本委員 認定こども園のお話が出ていましたが、幼稚園から移行している園も多いと思います。現在9か所だったかと思うのですが、地区別に何か所あるのか、定員はどのぐらいかを教えてください。また、待機児童の数も教えていただければと思います。

こどもみらい課長 定員までは、手元に資料がないのですが、北部からですと、四倉・久之浜地区の久之浜こども園、平地区の平幼稚園、神谷こども園（旧神谷幼稚園）、りんごの木（旧清風幼稚園）、小名浜地区のわかぎ幼稚園、既存のあそびの森こども園（旧船戸幼稚園）、勿来地区のなこそ幼稚園、既存の錦星こども園となっています。常磐地区と内郷地区には、こども園がない状況です。今後も、35か所あった幼稚園の中で、約半数がこども園を希望しており、増加する見込みです。（定員については、後日資料配布済）

次に、待機児童ですが、4月と10月を起点にしています。まず今年の例で申し上げますと、今年の4月現在は待機児童数が7人でした。0歳は毎月増えてくるので、10月は数が多くなります。10月の待機児童数はまだこれから発表、報道になりますが、例年30人から40人ほどになるかなというところです。それから、第1希望又は第2希望の幼稚園に入れず、そこしか希望していないため、住んでいる地区に空き幼稚園はあるけれども、そういう理由で入れないという、人によっては選ぶ基準が違う場合があります。潜在的な部分を入れると、それ以上の数になるかなとは考えております。それなりに待機児童の数は出ているということでございます。

教育長 よろしいですか。その他何かございますか。

山本委員 今、小学校でも中学校でも、ノーマライゼーションの考えから、障がいを持っている子ども達が「お互いに尊重し、受け入れて、そして共に育ちあう」という考えでやっているのですが、先日いわき市の子ども子育て支援サイトを見ましたら、市立保育所で22か所、公立保育所は全部で行っているというのが出ていました。私、こんなにやっているとは思いませんでした。

そこで、先ほど説明がありましたが、公立幼稚園では、これから、障がいを持っている子ども達と一緒に統合保育を行えるところがどのくらいあるのでしょうか。資料の基幹園の候補は、全部統合保育が行われているという理解でよろしいのでしょうか。

こどもみらい課長 西小名浜幼稚園以外は、もともと統合保育実施園ということで教育委員会時代から位置づけられてきた所でございます。西小名浜幼稚園以外の所でも若干の障がい児が在籍しておりまして、職員を多く配置して対応しているということで、基幹園候補の6園に限ったものではなくっております。

山本委員 私立幼稚園で統合保育を行っているのは、どのくらいありますか。

こどもみらい課長 正確な数は把握しておりませんが、積極的に受け入れている所と、そうではない所があります。数字は後ほど確認させていただきます。（後日、資料配布済）

山本委員 幼児教育無償化の制度が始まりますから、ますます公立よりも民間の幼稚園に子ども達が移っていくと思います。障がいを抱えている子ども達が、幼稚園の中でスムーズに一緒に育ちあうことができるようになって欲しいなということを願っています。よろしくお願いします。

教育長 その他何かございますか。それでは以上で報告は終わりたいと思いますが、何か変化等があったときには、また、折りを見て説明をいただきたいと思います。

やはり、保育の質を落とさないということが一番大事なことなので、専門部会にもいろいろ話は出ていると思いますが、いわゆる再編の考え方も合わせて、保育の質についても助言等をいただきながら、しっかりと取り組んでいただければと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、今日は協議がございませんので、その他の件に入りたいと思います。4点ございます。（1）「学びの習慣づくり」推進事業について、学校教育課長から説明願います。

学校教育課長 〔その他（1）「学びの習慣づくり」推進事業について説明〕

教育長 ただいまの説明に対して御質問はございますか。

根本委員 まず9月から開始で10校ということですが、私には少なく感じられ

るのですが、どのような決め方をされたのでしょうか。それから学習会場運営委員の方の選任の仕方についても教えてください。

学校教育課長 まず、10校の選定方法ですが、全中学校39校に声を掛けまして、希望のあった学校ということです。当初は7校が希望しておりましたが、もう少し増やせるということで、こちらから声を掛けましたところ、10校ということになりました。

また、学習会場運営委員の選任方法については、退職校長会にお断わりをした上で、退職校長会の方々を中心に、こちらから声かけをした経緯でございます。10名の運営委員のうち、退職校長先生が7名、退職教諭が2名という状況です。御自分が退職した学校ですと比較的やって下さるのかなということで、退職教諭の方にも2名、御協力いただいております。また、それ以外に支援員の方で以前から子どもの勉強を見てくれていたという学校もありまして、そういう学校がこれを機に学習会場運営委員としてお願いしたケースもあります。

根本委員 運営委員の方は直接、学習指導等は行わないという説明でしたが、確かに、まずは家庭学習をしない子に、学習の習慣をつけるということが最初の目的かなと思います。しかし、子ども達が自習していく中で、わからない箇所が出てきたときに何らかの方法で学習指導も含めてやっていくことなども見据えているのかどうか、お聞きしてよろしいでしょうか。

学校教育課長 現時点で学習会場運営委員の先生方には、御自分が指導なさった経験のある教科であれば、遠慮なく指導して下さいと申し上げております。

また、この学習会をその運営委員に丸投げしている学校は全くなく、学校として積極的に関わっています。私も2校ほど拝見しましたが、事前指導の段階等や指導途中にも、学年担当の先生方などが、時間を見て子ども達の様子を見に来たり、部活動の合間にもちょっと寄ったりと、そのような形で学校として主体的に運営している状況です。運営委員の先生方も、お手伝いに行っているような感覚でやってくれていますので、学校の教員が訪れた時に、質問に応じたりという姿も見受けられました。まったく子どもが質問出来ないという状況ではなくて、学校の教員につないだりということもやってくれるのかなと思います。

宮澤委員 課長の説明にありましたが、これまでほとんど家で勉強してこなかった子ども達が自分の意思で学習会に参加するということはすごいことだと思います。そういった機会やきっかけ作りを教育委員会で行ったということは、とても素晴らしい推進事業だなと思っています。

この子達は、分からないところが分からなかった子ども達だと思うので、分からない所はここだったのか、と理解できたということ、ひとつでも多く増やして欲しいと思います。自分で気づいたことが増えていって、先生方とのコミュニケーションが取れたり、小さな積み重ねで、学習意欲も徐々に芽生えてくると思うので、まずこの場作り、きっかけ作りが素晴らしいなと思ってとても嬉しく思っています。ありがとうございます。

それと、参加していないお母さんもどんなことやっているのか知りたいと思うので、子ども達の学習の様子などの報告を、例えば学校のホームページ等でお知らせしてもらえるといいのかなと思います。連鎖反応で「じゃあ僕も私も。」「あの子がやってるから行ってみようかな。」「このままの自分ではいけない。」というような、きっかけ作りが出来ればいいなと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

教育長 よろしいですか。その他ございますか。

山本委員 私も玉澤先生のお話を聞いて嬉しかったです。子ども達が自ら希望しているということが。出来なかったけどやってみようかなと思ったこと、そして学校が丸投げじゃなくて積極的に関わっていますよということ、学校も喜んで希望してくれた学校ですよ、というところが大変嬉しかったです。

また、生活リズムの中に、子ども達が最終的に学習の時間を位置づけるということが大切なので、生活の自由時間の中で、学校の時間と睡眠をとって、その中で自分がどこに何時間ぐらい割り当てる、そういうことも学習会場運営委員の先生と相談してくれるといいなと思います。退職された先生方ですから、子ども達の悩みを聞きながら、その相談にも応じてくれるだろうなど、期待しています。

もうひとつ、宮澤委員からもありましたが、こんなことをやっているということを経験では分かっているのかなと。やっぱり学習に集中できる環境作りをしているのは家庭なので、お子さんの今抱えている課題や悩みを一緒に共有するのも家庭なので、そのあたりの家庭との連携が大切だと思います。

さらには、PTAとして本校の子ども達はこんな所でこんなふうに頑張っていくますということを、PTAとの連携も出てくるのかなということを感じました。

本当にいい機会を子ども達に与えてくださいます、ありがとうございます。

教育長 その他ありますか。

教育長 あまり難しくなければいいなと思っています。というのは、どうも、勉強はエビデンスとしてあるのですが、部屋に入って籠って勉強するのはだめだとよく言いますよね。よく大人の目が近くにある所で勉強すると効率が上がるし、高まるというのがエビデンスとしてあって。例えば学習の場が設定されて、そこに参加して、メインの先生が見ていてくれるという安心感の中で、しっかりやらなくてははいけないということは、すごく大事なことで、それが習慣づけにもつながっていくだろうと。

おそらく分からない所があれば、その先生が教えられなくても、明日先生に聞きなよとなるわけですね。すごく意欲が出てきて、次の日に先生に聞くようになれば、好循環になってくるかなと思います。それと、学校全体で勉強をしっかりやっていたら、いい雰囲気というか、風土が出来上がってくると、随分違ってくるのかなとも思います。

近頃は教えない塾というのが流行りですね。自分で勉強して、分からない所については、きちんと自分で解決しながら、また、聞きながらやるという、講義式には教

えない塾がこの頃流行ってきていることは、そういうところもあるのかなと思っています。

実施計画の10校ということで今回は認められたので、この成果が上がっていけば、希望する学校が徐々に増えていくことにもなるので、この10校で成果を出して取り組んでいきたいと考えているところです。

それでは、（２）国指定史跡「中田横穴」の一般公開について、文化振興課長から説明願います。

参事兼文化振興課長　〔その他（２）国指定史跡「中田横穴」の一般公開について説明〕

教育長　ただいまの説明に対して御質問等ございますでしょうか。

これは昨年度も実施しましたよね。どのくらい参加したのでしょうか。

参事兼文化振興課長　昨年度は、10月に1回と、7月の海開きに合わせて公開したところですが、10月の一般公開では156名の方が来場されました。また、7月の海開きの数字は、はっきりはつかんではおりませんが、事前に申し込んだ方限定ということで、マイクロバスで3回くらいだったと思いますので、60名程度かなと思っています。

教育長　結構な数ですね。

その他ありますか。それでは、よろしいですか。

それでは、（３）いわき市立美術館企画展「峰丘展—カラベラへの旅」の開催について、美術館副館長より説明願います。

美術館副館長　〔その他（３）いわき市立美術館企画展「峰丘展—カラベラへの旅」の開催について説明〕

教育長　ただいまの説明に対して御質問等ございますか。

よろしいですか。

それでは、（４）に移ります。平成30年度いわき総合図書館読書週間事業について、いわき総合図書館長から説明願います。

いわき総合図書館長　〔その他（４）平成30年度いわき総合図書館読書週間事業について説明〕

教育長　ただいまの説明に対して御質問等ございますか。

宮澤委員　何年か前に、ラトブで子ども達で作った絵本の展示会を見てきたのですが、今回は大人の工作ということで、その作った絵本とは、一緒に展示する予定ですか

いわき総合図書館長 そのような予定になっています。

教育長 その他ございますか。

馬目委員 8頁の上から4行目で、ルーラル電子図書館とはどういうものでしょうか。

いわき総合図書館長 ルーラルというのは、農山村のとか、田園の、という意味になります。これは、農山漁村文化協会が運営している、インターネット上のサイトになります。ここには、野菜の育て方や農山村での暮らし方といった自然を体感する暮らし、さらには、食品加工についての様々な情報が掲載されております。参加者と一緒にそのサイトを見ながら、実際の野菜作りとか、農山村暮らしの知恵等を勉強する内容になっております。

教育長 よろしいですか。

それでは、以上を持ちまして、平成30年度第6回教育委員会を閉会いたします。